



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.12

[発行日]平成30年12月20日 [発行]四日市看護医療大学 庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

学生が学びを深められる臨地実習をめざして

2018年4月1日付けで母性看護学・助産学教授に着任いたしました二村良子です。

着任後、臨地実習でさまざまな実習施設で実習を行っていますが、本学は、学校法人暁学園と四日市市、市立四日市病院との公私協力方式により運営されていることから、市立四日市病院をはじめ、近隣の中核医療機関等の存在により、教育体制が充実していると実感しています。また、本学は開学12年目を迎え、臨地実習施設には卒業生が多く就職し、その卒業生は中堅者として重要な役割を担い、実習指導において後輩である学生に対してとても丁寧に対応してくださっています。このような環境で新たに教員として教育・研究に携わることができることをとても光栄に思っています。



二村 良子 教授



臨地実習では、看護師を目指す学生が患者様や看護スタッフと直接関わりながら看護実践できる場であることから、とても楽しみであり、期待をもって臨んでいると思います。しかし、その反面、実際に患者様とのふれあい、看護を実践していくことにたいへん緊張することもあります。私はこのような臨地実習における学生の様子を長年見てきており、良い学習（実習）環境であれば、学生は学習意欲が高まり、学生にとって少し難しい課題に対しても挑戦していこうという気持ちが芽生えてきます。自身で新たな課題を見つけ、挑戦を行っている人は確実に成長できます。学生たちが迷いながら、しかし、確実に成長していく姿をみるのが教員としての私の楽しみであり、喜びです。

学生が実習を通して多くの学びが得られるよう、教員として実習の環境調整等を行っていきたく考えています。そのためには、私がこれまでに長年の教育・研究・地域貢献で培ってきた知識や技術等を授業・実習に還元し、学生がより学びを深められるよう、さらに、実習施設の方たちとの看護実践や研究等を通して連携を深めていけるよう努力する所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成30年度 四日市看護医療大学・大学院 入学式が挙行されました



平成30年4月2日(月) 本学12期生及び大学院8期生の入学式が挙行されました。

当日は、四日市市副市長をはじめとしたご来賓と多くのご家族の方々に見守られながら、学部生113名、院生6名の新入生が新しい学生生活のスタートを切りました。

丸山康人学長からの入学許可宣言で始まった式典では、学部生代表の牧野睦さん、院生代表の一尾麻美さんそれぞれが入学宣誓を行い、これからの学生生活に向けて新たな決意を述べました。

教員からのメッセージ

講師 増田 由美

小児看護学領域では、3年生での領域実習に向け技術演習を行っています。

0歳から15歳まで幅広い年齢を対象とするため、たとえば血圧測定で腕に巻くマンシェットだけでも5種類以上あります。また、大人のように言葉で説明するだけでは理解や協力が得られません。ご家族の心配や疲労も大きく、子どもとご家族に対しさまざまな関わりが必要となります。

演習では、講義や自主学習をもとに、病気で機嫌が悪く、泣いて協力が困難な乳幼児への看護実践をグループで考えてシナリオを作り発表しました。言葉で訴えることができない子どもの様子を観察し、痛くなくても怖がり嫌がる子どもへの処置やケアを安全で苦痛なく行うための言葉かけを工夫し、おもちゃやキャラクターなども使用しました。

子どもは大人の思惑通りにいかず、わずかなことが負担となり、常に安全への配慮が必要で、ご家族への配慮のもと協力を得て発達段階に合った援助を行う大切さを学ぶことができました。



平成30年度 教育後援会役員会・総会



5月26日(土)、本学にて平成30年度教育後援会の役員会・総会が開催され、教育後援会岡平会長をはじめ6名の役員、11名の保護者、大学側からは、丸山学長、水野副学長、豊島学科長、室町事務局長を顧問とし、事務局を含め25名の会議となりました。両会では平成29年度事業報告および決算、平成30年度役員選出、平成30年度事業計画および予算等について審議され、承認されました。ご参加いただいた役員並びに会員の皆様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。また総会では、質疑応答の時間を設け、参加された保護者の方々から国家試験対策や就職に関する質問をいただき、教育後援会顧問である学科長、事務局からご回答させて頂きました。次年度も総会へのご参加、忌憚のないご意見を教職員一同、心よりお待ちしております。

平成30年度 保護者懇談会



教育後援会岡平会長をはじめ、会員皆様のご支援により今年も無事に開催することができました。この場を借りて教職員一同、深く御礼申し上げます。

10月6日(土) 当日は、台風の影響もあってあいにくの天気でしたが、56組81名の方に参加していただきました。全体説明会として水野副学長より「卒業後の進路について考える」、また豊島学科長からは「本学の教育と学生生活の状況」について説明していただきました。教育セミナーでは、いしが在宅ケアクリニック石賀院長による講演が高評で在宅医療への関心がますます高まっていることを実感いたしました。また、今年から学食サービスをリニューアルしたこともあり、学生食堂での懇親会は、新しくなったサービスを体験していただける良い機会になったと思います。今後も保護者懇談会は、保護者様同士の情報交換の場として、また保護者様と教員をお繋ぎする場として、ご子弟の学生生活を知っていただく場としてより一層お力添えできるよう、教職員一同精進してまいります。

学友会 新入生歓迎会



4月4日(水)、新入生歓迎会が開催されました。

この春から新しく学友会執行委員になった2年生が中心となって、入学式からオリエンテーションと緊張した日々を過ごしてきた新入生たちを楽しんでもらおうと、準備を行いました。

当日は、ジュースで乾杯したあと、軽食をとりながら、クラブ・サークル紹介やビンゴゲームで大いに盛り上がりました。短い時間ではありましたが、これから共に4年間を過ごす仲間や先輩たちと打ち解けた様子でした。

オープンキャンパス



今年度のオープンキャンパスが、7月21日(土)、8月6日(月)、8月19日(日)に行われました。今年も東海地区を中心に多くの高校生とその保護者様にご参加いただき、全体の参加者数は昨年、一昨年来を大きく上回る735名となりました。本学への関心の高さは引き続き高い状況にあると感じられました。

当日の内容として、午前の全体説明会では、副学長の挨拶から始まり、四日市市健康福祉部理事様から本学の支援制度などについてお話をいただき、次に今年度の入試説明を行いました。その後、学生食堂へ移動しバイキング形式の昼食をはさみ、午後は看護実習体験、模擬講義、施設見学など自由にイベントに参加いただき、大学の雰囲気を感じていただく時間としました。そして、学生ホールでは、入試や奨学金などについて相談する個別相談コーナーのほか、昨年に引き続き在学生と直接話ができる「先輩と話そうコーナー」を設け、受験勉強や大学での授業や実習などについて熱心に質問する高校生や保護者で賑わっていました。

参加された方のお声を聞くと、オープンキャンパスを通して四日市看護医療大学を理解していただき、今後の進路や目標を決めるにあたっての有意義な機会の提供になったと思われまます。

教職研修の活動について

平成30年度 FD (Faculty Development) 委員会の活動について

FD 委員会委員長 豊島 泰子

FD 委員会の主な活動は、前学期・後学期の講義を受講した学生に対して行う授業評価と教員の教育力の向上のための研修を行っています。授業評価では、その集計結果を全教員に示し、その結果を踏まえ専任教員からリフレクションペーパー(行動の振り返り)の提出を求め、リフレクションペーパーを含めた授業評価結果を図書館に一定期間情報公開し、教員および学生の閲覧希望者には閲覧できるようにすることで授業改善を図っています。今年度は、学生の閲覧者数を増やすために掲示するなどの工夫をいたしました。閲覧者は、徐々に伸びてきています。一方、教員の教育力の向上に向けては、8月に臨地実習指導の教員を対象に臨地実習での指導のあり方について事例検討を行いました。12月には「研究指導に役立つ研究倫理申請」のテーマで研修会を開催する予定です。

近年、大学は文部科学省から教育の質向上に向けてさまざまな取り組みが求められています。本学も本委員会が中心となり、全学的に教育の質向上に取り組んでまいりたいと考えています。

ハラスメント対策研修会について

ハラスメント対策委員会委員長 畑中 純子

ハラスメント対策委員会は、学生および教職員の個人の人権が尊重され、安全で公正な環境の下で学び、働く権利を保障することを目的に、ハラスメント事案発生時の対応および再発防止策の構築、ハラスメント防止のための研修会の開催をしています。

毎年のハラスメント対策研修会は、ハラスメントの理解を深め、学生へのハラスメント防止をテーマに実施してきました。今年度は教職員間のハラスメント防止のみならず良い職場づくりが学生に快適な学びの場を提供することになると考え、12月に「風通しの良い職場づくりのために、できること、すべきこと～ハラスメントを考える～」をテーマに開催する予定です。

さまざまな方向からハラスメント対策研修会を継続して実施することで、ハラスメントに対する理解をより深め、ハラスメント防止を図っていきます。

教職員研修

局長 室町 律雄

本学では、大学職員としての能力の向上とともに、社会人としての資質向上を図るため、学内・学外の研修等を通じてその取り組みを進めています。

研修は、大学を取り巻く厳しい状況に対応していくため、知識の積み上げだけでなく、高等教育を取り巻く状況を分析する能力や戦略的な経営思考、企画能力など、大学人として求められる能力の養成を目指すとともに、改革意識を促すものと位置づけています。

平成30年度、教員においては、データ分析や解析の研修や質的統合法(個別の情報を統合してあるべき姿を模索する手法)の研修などを行い、事務職員は、問題解決力を高める研修や中間管理職研修、IR(情報戦略)研修などを実施しました。そのほか、四日市大学・暁高等学校と一緒に高校と大学との連携にかかる合同研修を行い、更に12月にはハラスメント研修等を予定しています。

今後も、様々な研修を活用しながら教職員の能力と資質の向上に努め、良好な教育環境を整えてまいります。

平成30年度 社会貢献活動

公開講座

「60分でわかる少子高齢化」

教授 東川 薫



平成30年7月14日(土)じばさん三重5F大研修室にて本学教授 東川 薫が「60分でわかる少子高齢化について」というテーマで講演いたしました。

『少子高齢化』について、戦後の出生数と出生率の推移のグラフを使用しながら、団塊の世代の人口が現在高齢者となり、急速な高齢者化がすすんでいる。しかし高齢者化率は今後40%まで上昇するが、実はこれ以降その水準で安定する見込みであること。社会全体の急激な少子高齢化・人口減少に対しては「AI(人工知能)」、「BI(ベーシック・インカム)」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ワークシェアリング」のこれらの組み合わせで乗り切っていけることなどについての講演となりました。

皆さん熱心に聴講され、充実した60分をお過ごしいただきました。

みえアカデミックセミナー

「最期まで自宅で自分らしく」

教授 豊島 泰子

平成30年8月9日(木)に三重県総合文化センターにて、本学にとって11回目の参加をさせていただきました。

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、各校がそれぞれの特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーを毎年夏季に開催するものです。

今回は、豊島泰子 教授による『最期まで自宅で自分らしく』というテーマで約130名ものたくさんの来場者をお迎えして講演を行いました。講演内容は誰もがいつかは必ず迎える「人生の最期」。人生の最終段階をどこでどのように迎えるのか、最期まで住み慣れたわが家で自分らしく暮らすために必要なこととはなにかを皆様と共に考えていただきました。豊島教授の穏やかな口調に会場内は終始なごやかな雰囲気にもまれ、来場者の方々は熱心に聴講されていました。



高齢者向け生涯学習プログラム

「よりよい眠りのために」

教授 二村 良子

平成30年9月28日(金)、本学B館サロンMIEにて高齢者向け生涯学習プログラム2018「よりよい眠りのために～呼吸法とエクササイズでよい眠りを～」を開催しました。4回目の開催となる今回は、近隣にお住まいの方々はもとより遠方からも多数のお申し込みがあり、定員を大幅に超える40名以上の方々にご参加いただきました。

本学 二村良子教授が眠りのメカニズムや快眠のための工夫について分かりやすく説明し、よりよい眠りのための呼吸法や体操などの実演も織り交ぜながら講演しました。



臨地実習について

看護学は、「実践の学問(実践の科学)である」と言われており、学問体系と実践体系の両面を持っており、座学で学んだ知識・技術を実践する意味でも臨地実習は非常に重要です。今年度の臨地実習は、5月7日(月)初日の4年生の統合実習からスタートしました。この実習は学んだ知識と技術を統合・応用し、さまざまな看護場面における看護実践能力を高める目的で2週間実施されました。学生は8つの領域に分かれ各自で課題を見つけ、看護実践能力を高めることができたようです。次いで6月には選択科目の地域看護学実習I、II(保健師課程)、8月には選択科目の助産学実習(助産師課程)が実施されました。2年生は夏休み明けからコミュニテイケア実習、基礎看護学実習Iを行いました。コミュニテイケア実習では、保健所、保健センター、複合施設、企業での実習と企業の施設もお借りし、本学周辺の地域住民の協力を得ながら地域に出向いて初めて地区踏査を実施しました。学生はこの実習で看護職の役割(保健師)について学習が深まったようです。3年生は9月18日(火)から各論実習が開始され、平成31年3月1日(金)まで母性・小児・成人・老年・在宅・精神の領域において、前期の座学で学んだ知識を臨地実習の場で実践をしながら、対象に合った支援方法について学びます。臨地実習では教員は、専門知識・技術のみならず、実習態度など看護専門職として成長できるよう、マンツーマンでの学生指導に力を入れております。今後とも関係機関の皆様方のご支援を頂きたいと思っております。 教育推進・学生支援センター長 豊島 泰子

基礎看護学実習で学んだこと

看護学科2年生 堀田 桃子



今回は初めての実習ということもあり、実習が始まる前から患者さんと上手くコミュニケーションがとれるのか不安でした。実習が始まり、はじめは自己紹介や入院前の生活について話をしていたのですが、日数を重ねるうちに「爪が伸びているのが気になって」と悩んでいたことを打ち明けてくれました。翌日病室を訪問すると、爪を眺めながら嬉しそうに切ってもらったことを報告してくださり、信頼関係を築くことの大切さを学ぶことができました。また、退院後も自立した生活が送れるよう、できる能力を生かした援助計画を立案することの難しさを感じました。今回の実習で学ばせていただいたことを忘れずに今後活かしていきたいと思っております。

庶務課紹介

庶務課とは、大学の窓口でもあり教職員の労務管理から施設・設備の維持管理などと、多岐にわたって幅広く全体の調整的な役割を果たしております。

学生の方々は、なかなか触れ合う機会がない中で、学生の方への応援の気持ちを形にしたいとの思いから、1Fから4Fトイレでのメッセージスペースを設けさせていただきました。

ふとトイレに入ったときに、何気ないメッセージが誰かのお役に立てたらと心ながらに思っております。

今後もサロン MIE を含め庶務課課員4名一丸となって業務に励んでいく所存です。



海外研修

学生：松浦 美月

2年生30名が7月29日から8月13日まで約2週間、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校で海外研修を行いました。午前中は大学で医療英語や病院内で使う会話などの授業を受けました。午後はアメリカで活躍する日本人看護師の方から日本とアメリカの看護・医療・保健の違いを実際体験したことを踏まえた話を聞くことができました。また、病院や老人施設などを訪問・見学させていただくことで日本との違いを自分たちの目で見て気がつくことができました。疑問に思った時はその場で質問することで、考えを深め、知識として自分に残すことができました。実際に見たり、聞いたり、感じたりする機会は減多にないと思うので、すごく貴重な体験ができました。病院以外にも、休日はディズニーランドやアウトレットなどの体験もすることができました。

2週間アメリカで生活する中で、慣れない英語で会話をしたり、食事の違いであったり、大変なことはたくさんありましたが、それ以上に英語が伝わった時や人々の優しさに触れたとき、ショッピングやビーチ先まで自分達だけで行けた時などの嬉しさや達成感などを感じる事ができ、毎日が新鮮で楽しい日々でした。

この海外研修では、共同生活を送る中で友達も増え、見たこと、聞いたこと、感じたことは私たちの人生において必ず糧となります。このような体験ができたのも、関係者の方々や先生、行かせてくれた両親、一緒に助け合ったメンバーのおかげです。私にとって大切な最高の思い出です。

准教授：小笠原ゆかり

7月29日(日)～8月13日(月)の16日間、平成30年度海外研修にカリフォルニア州立大学ロングビーチ校へ行ってきました。今年度の参加者は女子学生27名、男子学生3名の合計30名でした。セントレアに向かう初日は台風の影響を受け、心配なこともありましたが、学生それぞれが語学だけでなく、異文化での生活することやドミトリー(学生寮)での集団生活を通して大きく成長することができたと思います。

毎日午前中に語学研修が行われ、2名の先生が学生たちを温かく見守り、英語を話しやすい雰囲気の中で、楽しくかつ有意義な講義をしてくださいました。患者役と看護師役に分かれ英語で問診をするロールプレイングを行ったり、医療に関する単語を覚えるために予習や復習に熱心に取り組んだり、学生たちは寝る間も惜しんで勉強していました。また、ナースプラクティショナーの講義、ナーシングホームや病院見学を通して、アメリカの看護や医療の現場に実際に触れることができました。アメリカの看護や医療の実際を知ることは、学生にとって貴重な体験であり、新たな興味や関心へとつながり、大きな学びになったと思います。

この海外研修での2週間の学びが、学生たちの今後の成長やこれからの看護に繋がっていくと信じております。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のスタッフ、海外研修のサポートをしてくださった皆様に心から感謝いたします。



クラブ紹介 ソフトボール部

四日市看護医療大学ソフトボール部は、毎週月曜日、1年生から4年生男女18名で活動しています。部活動は、おもに練習と、年に数回試合を行っています。

練習は、キャッチボールやバッティングが中心で、勉強や課題に追われる毎日ですが、体を動かすことで、リフレッシュにもなっています。

今年7月に学年対抗の紅白戦、昨年8月には四日市大学アメリカンフットボール部と試合を行いました。試合は経験者も初心者も一緒になって、いつもと違う楽しさがあり、部員の仲も深まります。

部活動の良さは、運動不足の解消はもちろん、普段の大学生活では同学年と過ごすことが多いなか、先輩に勉強やテスト、大学生生活の悩みを相談したり、後輩とおしゃべりしたりと、学年を超えてつながることができることです。

ソフトボール部に入部すれば、大学生活がさらに充実し、ずっと続けていきたいと感じていただきたいと思います。



よんよん祭

テーマ「Harmony ～地域と大学の調和～」

2018年10月27日(土)・28日(日)

本学大学祭は、今年で四日市看護医療大学としては12回目、四日市大学・四日市看護医療大学合同大学祭「よんよん祭」として10回目の大学祭を行いました。

模擬店、カラオケ大会、マジックショーをはじめ、今年は、シンガーソングライター「NOBU」のライブも行われ、大変賑わいました。

また、本学では、今年も看護棟1階から5階を使用し、『プチっとナース体験』を実施、幅広い年代の多くの方にご参加いただきました。



プチっと
ナース体験
老人体験



プチっと
ナース体験
車イス



実行委員 コメント

これまで、先輩方が作り上げてきた大学祭を、私たちが引き継ぎ無事開催できたこと、何よりもホッとしております。特に『プチっとナース体験』は、昨年、先輩方がこの企画を立ち上げ、作り上げたものを大切にしつつも、そこに、今年の私たちらしさをどう表現していけば良いのか悩みました。

そこで、健康や看護に興味・関心を持っていただけるようなイベントに加え、私たちが勉強以外に取り組んでいるクラブ・サークル活動や学外活動をお伝えし、本学の特長や魅力を感じていただきたいと今年の『プチっとナース体験』を企画しました。

今年も地域の皆様をはじめ、両大学の卒業生の方々にたくさんお越しいただき、無事終わられましたこと、感謝申し上げます。
学友会会長 久納 志織

家族の笑顔をつなぐピンクリボン2018

平成30年10月21日(日)「第8回家族の笑顔をつなぐピンクリボン2018」(主催・よっかいちがんセンター実行委員会)が、ララスクエア四日市にて開催されました。がんは、まず予防と早期発見がポイントです。四日市市の検診率は徐々に上昇してきましたが、働き盛りの世代の検診率を上げることが重要であり、がん検診啓発を目的としたイベントです。

子どもダンス、コーラスなどの楽しいステージ、ピンクリボンネイルアート等の体験コーナーなどたくさんの催しを行い、がん検診を勧めることができました。「こにゅうどうくん」との撮影会は大人気でした。

四日市看護医療大学の学生は、自己管理にポイントを置いた啓発ポスターを作成し、検診啓発を行い、ハンドマッサージ(乳がん患者さんへの支援方法)や小さな子どものいる家族を対象としたアートバルーン作成等で来場者に働きかけました。

300名余りの来場者に「がん検診を受けてください」というメッセージと共にがんへの関心を促すことができました。

講師 藤井 夕香



地域研究機構 看護研究交流センター活動プロジェクト 『地域住民の健康づくりプロジェクト』

本学は、平成27年度より菰野町と地域社会の発展および人材育成及び学術の振興に寄与することを目的として包括連携協定を結んでおり、平成28年度、その趣旨を根幹に本プロジェクトを立ち上げました。菰野町健康福祉課と協働し、保健・医療・福祉に関するイベントへの参加を通して、地域住民の健康づくりの推進および介護予防の啓発を行うことを目的としています。また、イベントには学生ボランティアも加わり、地域社会への理解や地域の保健・医療・福祉の担い手としての意識を高める機会としています。

10月27日(土)秋のウォーキング大会が開催され、学生4名と共にボランティアとして参加しました。菰野町役場本庁舎周辺を5キロ、10キロコースに分かれ、総勢113名の地域住民が参加し、共にウォーキングしました。危ぶまれた天候も開催時間には青空に!爽やかな秋の空気の中、全員が完歩できました。幼児から80歳代の高齢者まで、世代を越えて交流し健康意識を高めることができました。
助教 春名 誠美



高大連携について

暁高校との高大連携事業として、1年生、2年生は出張講義、3年生は大学講座体験という形で実施しています。

1年生の出張講義は、医療系進学を希望する生徒を対象とし、10月3日(水)5、6時限を利用し大学講義らしい授業を体験していただきました。2年生の出張講義は、看護コースを選択された生徒を対象とし、6月14日(木)4時限、7月10日(火)4時限を利用し、より看護の専門的な講義を受講していただきました。そして、3年生の看護コースを選択された18名については、6月26日(火)午後1時30分本校へ高校の先生方と共に来校し、本学の授業に参加する形で大学講座体験をしていただきました。授業の中で、生徒達は一様に緊張し、在学生の真剣なやりとりで圧倒される場面も見られましたが、次第に大学教員、在生から指導を受けるうちに雰囲気にも慣れ、一生懸命講義を聞く姿が印象的でした。講座体験終了後の生徒達の感想として、在学生のプレゼンテーション技術や、授業の中での質疑応答などに大変感心していました。

この高大連携事業が、暁高校からの本学への進学、あるいは看護系養成校進学への動機付け、意識の向上につながるよう、今後も引き続き高大連携事業の改善を図っていきたく思います。



四日市看護医療大学
2017年度(2018年3月)卒業生

就職・進路相談

2017年度卒業生はそれぞれの看護の道に羽ばたいていきました。看護学生を取り巻く就職環境は、年々、厳選採用、採用時期の早期化、短期決戦へと移行しており、本学学生においてもゴールデンウィークをピークに4月から6月までに65%が、7月には90%以上が内定を得る結果となりました。この時期、ゼミ講義、統合実習、国家試験対策等多忙を極める学生ですが、この流れに乗り遅れないよう、また主体的な就職活動ができるよう、本学はアドバイザー教員を中心に全学的な体制で学生をサポートしています。



- ◆ **全体の40%が地方公務員**となり、独立法人化された準公務員なども含めると86%が何らかの公的医療機関に就職を果たしました。本学は、公務員や公的な職場への高い就職率を維持しています。
- ◆ 地域別では、**地元三重県への就職者数が58%**となり、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。
- ◆ **実習先病院には、41%が就職**しており、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となりました。

日本は、2025年には団塊の世代が全て75歳以上の高齢者となり、2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となるなど、急速に高齢化が進んでいきます。2018年度の診療報酬改定[※]でもキーワードとなったのは、やはり「地域包括ケアシステムの構築」と「医療機能の分化・強化」。このことは看護師の採用や働き方にも密接に関わってきますので本学としても、今後の動向に注視しながら、適切な学生支援を展開していく所存です。

※診療報酬改定：医療機関の診療に対して保険から支払われる報酬の改定で2年毎に見直される

2017年度 就職・進路状況 (2018年3月卒業生)

(単位：人、%)

卒業生	105
就職希望者	100
就職者	100
就職率	100%
進学希望	4
進学者	4
進学率	100%
その他	1

※就職希望者数は、卒業生のうち国家試験不合格者、就職意志のない者を除く。

就職先名	合計
市立四日市病院	29
三重県立総合医療センター	6
四日市羽津医療センター	4
伊勢赤十字病院	4
鈴鹿中央総合病院	4
三重大学医学部附属病院	4
松阪市民病院	3
みたき総合病院	1
市立伊勢総合病院	1
桑名市総合医療センター	1
永井病院	1
小計	58

就職先名	合計
名古屋市立大学病院	7
名古屋第一赤十字病院	3
海南病院	2
名古屋医療センター	2
名古屋第二赤十字病院	2
名城病院	2
あいち小児保健医療総合センター	1
愛知医科大学病院	1
愛知県精神医療センター	1
安城更生病院	1
一宮西病院	1
愛知 公立陶生病院	1
大同病院	1
トヨタ記念病院	1
豊田厚生病院	1
名古屋掖済会病院	1
名古屋市立西部医療センター	1
藤田保健衛生大学	1
坂文種報徳會病院	1
南生協病院	1
一宮市(保健師)	1
飛島村(保健師)	1
小計	33

就職先名	合計
東京 日本大学医学部附属板橋病院	1
東京 東京女子医科大学病院	1
千葉 千葉西総合病院	2
岐阜 岐阜市民病院	1
岐阜 東海中央病院	1
静岡 静岡赤十字病院	1
京都 京都大学医学部附属病院	1
大阪 大阪医科大学附属病院	1
他府県 小計	9
合計	100

進学先：名古屋市立大学大学院(1名)
助産専門学校(3名)

国家試験合格率

- **看護師：99.0%**
(受験者105名/合格者104名)
- **保健師：85.4%**
(受験者48名/合格者41名)
- **助産師：100%**
(受験者6名/合格者6名)

平成29年度卒業式 & 卒業記念品

平成30年3月10日(土)、四日市都ホテルにて、学位授与式を行いました。春の気配が感じられるよき日に、105名の卒業生、1名の修了生がそれぞれの進路へ巣立っていきました。卒業記念品事業として、卒業生の皆様より校旗一式を寄付していただき、今後式典等で使わせていただきます。ありがとうございました。

● 学食リニューアル

今年度より学生食堂を運営する業者が変更になったことに伴い、学生食堂のメニューが一新されました。

この機会に、学生食堂の雰囲気もリフレッシュして皆さんにより気持ちよく利用していただこうと、今まで殺風景だった入り口のメニュー表とサンプルコーナーもリニューアルしています。営業時間のブラックボードは学生にも協力を依頼し、シンプルでかわいらしい作品に仕上げていただきました。

学生食堂のリニューアルされた様子やおススメのメニュー等は、本学内の「サロンMIE」のブログ(<https://salon-mie.jp/>)でも『学食日記』として時々ご紹介していますので、そちらもぜひご覧ください。



● 平成30年度 宮崎徳子奨学金・長江拓子奨学金授与式および河野啓子賞表彰式

6月27日(水)、宮崎徳子奨学金および長江拓子奨学金授与式を開催しました。宮崎徳子奨学金は、開学以来、学科長、学生支援センター長、学長補佐を歴任され、現在に至るまで本学の発展にご尽力いただいている宮崎徳子先生から頂戴したご寄付を基に創設された奨学金です。また、長江拓子奨学金は、本学で教鞭を取られた後、顧問としてお力添えをいただいた長江拓子先生から頂戴したご寄付を基に創設された奨学金です。

この二つの奨学金制度は、本学の学生がより一層学習意欲を高め、看護専門職業人となる自己の目標を明確にすることにより、人材の育成に資することを目的としています。学業成績並びに本学及び社会への貢献等を審査し、宮崎徳子奨学金は4年生4名、3年生3名の計7名を、また、長江拓子奨学金は2年生1名を、それぞれ本年度の奨学生とすることを決定いたしました。

授与式では、丸山学長から賞状と奨学金が授与され、宮崎先生からは激励のお言葉や長江先生の功績などをお伺いし、その後は記念撮影。今後、この奨学金を受給された皆さんの、更なるご活躍を期待します。

なお「河野啓子賞」表彰式は、来年2月に実施される予定です。



● 学友会運動会

この「親睦運動会」は、これまで秋に開催していた運動会を、5月26日(土)に実施、その目的は、学年を超えた交流で、多くの人とつながりながら充実した大学生活を送るためのきっかけにして欲しいという気持ちをこめて、学友会が企画・開催しました。

当日は1年生から3年生約50名が参加、学年・男女関係なく4チームに分け、まずは自己紹介をしながら、アイスブレイクでチーム内の緊張をほぐしました。その後は、優勝チームやMVP受賞者に与えられる豪華景品をめざし、玉入れや障害物競走、ドッジボールのチーム対抗戦が行われ、熱戦が繰り広げられました。

チーム内の雰囲気も最初はぎこちないところもありましたが、競技が進むにつれ、みんなで応援しあったり、喜んだり悔しがっていました。短い時間でしたが、先輩・後輩のつながりもできたと思います。このつながりを、今後の大学生活に、ぜひ活かして欲しいと思います。



RUN伴 2018

10月13日(土) 認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベントであるRUN伴。今年で3度目の参加となります。本学が担当する区間は本学～垂坂公園～みたき総合病院で、学生及び教職員で編成した2チームに分かれ、それぞれの区間を今年も見事に完走することができました。

「認知症の人と一緒にタスキをつなぎ体験を通じて、誰もが暮らしやすい地域づくりを推進する活動」このコンセプトとともに、教職員・学生一丸となり一人一人の思いをこめてタスキを次へつなぐことができました。

RUN伴が目指す「RUN伴を通して認知症の人々と関わりながら、個人が様々なアクションをできる社会」をこれからも応援していきます。



■大学院専門看護師教育課程・専門看護師

研究科長 水野 正延

四日市看護医療大学大学院看護学研究科は2011年4月に開設し、修士論文コースと専門看護師(CNS)コースが設置されました。急性看護学領域には「急性重症患者看護専門看護師」コースを設けており、設置以来6名が修了し第一線の医療機関で活躍しています。

専門看護師(Certified Nurse Specialist)制度は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的としています。

専門看護師は、専門看護分野において以下の6つの役割を果たします。

1. 個人、家族及び集団に対して卓越した看護を実践する。(実践)
2. 看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う。(相談)
3. 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションを行う。(調整)
4. 個人、家族及び集団の権利を守るために、倫理的な問題や葛藤の解決を図る。(倫理調整)
5. 看護者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす。(教育)
6. 専門知識及び技術の向上並びに開発を図るために実践の場における研究活動を行う。(研究)

日本看護系大学協会による「専門看護師教育課程の審査」は、2020年度までに現行の26単位から38単位の専門看護師教育課程基準に移行します。本学も2019年度に教育課程を改正し、2020年度から38単位に対応いたします。

本年度 学位記授与式

平成31年3月10日(日) 四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。

学生の多様化への取り組み

大学祭、災害支援、救急対応、キャンサーリボン、クレヨンサークル等の学生の活躍等、地域を舞台とした学生の多様な活動に触れる機会が今年は多かった。看護学は人間学ともいえ、広い社会現象に根差した学問の一つであることから、座学の中では十分深めることができない総合的な生きる力を育むこれらの活動は、本学の理念でもある「人間たれ」を具現化することでもある。看護の倫理は、「弱い人間を前提としたケアリングの立場から展開されること」を土台としているのであり、幅広い社会現象から学生が自ら「じぶんのめ」で、「じぶんののみみ」で、「じぶんのはだ」で触れて、「じぶんのもの」にしていくことでしか自らの力に変えていくことはできない。学生を見つめる重症心身障碍児の目から、がんへの不安から自分の健康を守ろうとする市民の方々から、学生は学んでいくしかないといえよう。

特任教授 宮崎 徳子